

G-1 bortezomib 投与における末梢神経障害評価法の検討

○細川 舞¹、磯田 淳²、眞中章弘³、馬渡桃子²、中橋寛隆²、松本守生²、星野まち子¹、
澤村 守夫²

独立行政法人国立病院機構西群馬病院 看護部¹、同 血液内科²、同 薬剤科³

【目的】多発性骨髄腫患者における、bortezomibによる末梢神経障害の評価と介入を検討した一例を報告する。【症例】55歳男性。IgG-λ型、ISS-stage3。VAD療法2サイクル後にbortezomib 1.3 mg/m² (day1, 4, 8, 11) と dexamethasone 20 mg/body (day1, 2, 4, 5, 8, 9, 11, 12) を1サイクルとし3週毎に2サイクル行った。末梢神経障害の程度について、FACT-GOG (NTx)、Bodyスケール、Visual Analogue Scale (VAS)を使用して評価を行った。

【結果】bortezomib投与中には末梢神経障害の出現はみられなかったが、投与開始後 day79には疼痛を伴う Grade3 の神経障害 (感覚性) の出現があった。末梢神経障害に対する薬物療法の検討や罨法の介入を行い、投与 day154 (終了後 day122) には Grade1 まで改善を認めることができた。

【結論】bortezomib投与における末梢神経障害は、患者にとって大きな苦痛となり、ADLを著しく低下させる。今回、FACT-GOG (NTx) と Body スケールでのスクリーニングを試みたが、FACT-GOG (NTx) のみでは評価しきれない温度覚異常等の訴えもあり、評価スケールを検討する事が今後の課題である。また、本事例では、bortezomib投与後に末梢神経障害の出現が認められており、評価の頻度と投与終了後のモニタリング、そして早期発見するための兆候を見出すことが必要である。